順正寺報第二十八号

秋季彼岸会法要御案内

残暑きびしき候、貴家皆々様には御健勝にて、お過ごしの御事と存じ上げます。

さて、古来より日本民族の行事として親しまれてきた彼岸会（秋季）が近づいてまいりました。

当山「順正寺」でも壇信徒の総霊位をまつり、仏恩報謝の念いをこめて、下記の通り『秋季彼岸会法要』を厳修致します。

御承知の通り彼岸会は、「御先祖の徳をしのび、今日、自分がある事のお陰を喜ぶ」大事な行事です。

公私共、御多忙とは存じますが、万障繰り合せの上、御参詣下さいます様、お願い申し上げます。

順正寺　住職　△口　学

江口　貫　照

記

九月二十六日（木）

『結願の日』

午後一時より

読経　法話　おとき

以上

※ご自宅での読経をご希望の方は、お電話下さい。

彼岸入り　9月20日（金）

お中日　9月23日（月…秋分の日）

結願　9月26日（木）

※寺へ御遺骨をお預けの方は、彼岸中に（20日から26日の間）必ず御参詣下さい。

尚、22日（日）、23日（月…秋分の日）に御参詣下されば、本堂にて、読経供養いたします。

人間（映画編）

江口　智流

先日、「フリッパー」という映画を観た。『友情という名で結ばれたイルカと少年が、大人の不正社会に立ち向かう冒険映画！』というものだった。正直、余り期待せずにいた。どうせ、「イルカは偉くて、凄いんだよ」何ていう、動物愛護協会推薦の映画のようなもんだろ、などと嘗めて掛かって観ていたら、ストーリー、映像、音楽、どれを取っても実に良くできていて、ただ一言、面白かった。これに勝るものはない。面白いか詰らないかだ。ストーリー云々は、今更ながら感じているだけのことであり、（余り動物ものの映画が好きでない自分が、なんで面白く感じたのかを考えたとき感じただけのことである。）観終わった瞬間は、『面白かった。』それだけである。こうじゃなきゃ、ねっ！

でも、もう少し御託を並べさせていただく。とにかく、そんなに制作費を掛けているような作品ではないのに、貧乏臭くない所がいい。金ばかり掛けて、貧乏臭い映画が散乱している中で、実にシンプルに、無駄のない作品に出来上がっていた。現代現代した映像を避け、無駄な照明を入れず、ありのままを移し出すかのような映像は、ともすれば、十年くらい前のリバイバル映画じゃないかと思わせられるような雰囲気を持ち、それがまた、ストーリートと相俟って、知らず知らずのうちに引き込まれていく。これは逆にいえば、半端じゃないカメラアングルや照明など、映像への妥協なき拘りが生み出したものだと思う。こういう、何時の時代においても古さを感じさせない物はやはり良い。

「アメリカン・グラフィティ」「スタンド・バイ・ミー」「ペーパー・ムーン」等々。日本映画でもあります。

「七人の侍」「用心棒」「蒲田行進曲」「幸せの黄色いハンカチ」、そして、「男はつらいよ」。（ここに挙げたのは、あくまでも私の趣味にあったもののうちの一部です）

和洋の違いもあります。（ちなみに、フランス映画だったら「太陽がいっぱい」なんかも良いですよね。）制作費が、いように掛っているものもあれば、掛ってない物もあります。年代も、状況設定も、出演者も（大スターが出ているもの、それまで聞いたこともないような役者だけで造られているようなもの）まったく条件が違います。それでも、素晴らしい物ができるのです。良いものは何時の時代においても良いものなんだと思います。

さて、こうした映画には共通する事柄が幾つかあるように思うのです。台本、演出がいい。一回観た後、また観たくなる。当たり前ですが手抜きがない。無駄金を使っていない。かといって、へんなケチ臭さを見せない。観客の立場になって（もし、自分が観客だったらという目を持って）造り上げている。でも、観客に媚びていない。流行に流されていない。等々。

そして、何よりもこうした素晴らしい映画を観たときに

何時も感じることは、出演者が、主役も、脇役も、それどころか、エキストラに至まで、みんな、画面の上で、そこに映っている一瞬一瞬、実に生き生きと描き出されているということなのです。台本の上では、演出の上では主役、脇役、エキストラの違いはあるにしても、一人一人、映し出されたその時は、どんなに小さく、誰だか解らんような大きさであったとしても、ちゃんと光が当たっている。生きている。操り人形でなく、一個人として見事に参加している。要は、邪魔者を作り出していないのである。例え方が悪いが、出演者すべてが、その時その時、与えられた場所で、見事に主役を張っているのである。だから画面のそこかしこから、輝きが放たれてくるのである。画面が、劇場全体が、輝きに満たされてくる。だから、貧乏臭くない。

どんなに凄い装置を用意して、コンピューターを駆使して、台本、演出、効果、照明に凝ったとしても、出ている人間がつまらなく見えるようでは、面白い物など出来るわけがない。登場人物が実に魅力的に描かれていると、何回観ても飽きない。そう思う。

人間が人間を描いているのに、ちっとも大切に人間を扱っていない。本末転倒。役者に力を入れるのが面倒なのか、言う事を聞かないから、どうせ出来っこ無いだろうと捨てているのか、はたまた、演技に注文つけるとブンむくれる様などうしょうもない役者が多すぎるのか、良くは知らないが、つまらん人間ばかり出てくる映画が本当に多い。

自分の回りの人達を良く見てみよう。一人一人が良くも悪くも、実に個性的で、我が儘で、必死に自分をその人なりに主張しているのが良く解る。脇役など一人もいない。気の合う奴、合わない奴。好きな人、大っ嫌いな奴。回り中をこんな人々に囲まれて我々は日頃、生活しているんだぜ。きっちり、登場人物を描いて、生かしてないようじゃ、面白く思えるわけがない。映画も、もっと魅力的に人物を描いてほしいものだ。不必要が渦巻いている映画など面白いわけ無いじゃない。当たり前のことだ。

私たちは、一人一人がその人生の中で、主役を張っている。と、思ったら、時には知らぬ間に脇役に徹している。そして振り返ると、やっぱり主役だ。でも、今は脇役やってる。その繰り返し。そうやって、お互いに絡み合って同じ時代を生きている。不必要な人間など一人もいない世界を目の当たりにしているのだから。

自分自身がどういう人間なのかをよくよく感じてみて、その結果出てきた答え、たとえそれが善くとも悪くとも、その答えをしっかり受け止めていく姿勢を持つこと。変わり様のない自分（本質的に）であるという事も認めていくこと。『今までの私を捨てて、新たに生まれ変わる』なんて、御都合主義的な考えを捨てて、丸々、自分を、自分の過去からも、現在からも、目を逸らして逃げることなく、真摯に捕らえて、認めて、感じていくことが、自分を磨くことに繋がると思う。当面、テーマは人間。　入口　学手

『蓮如上人五百回御遠忌』の御案内

一、本山『御遠忌法要』参加者募集！

さて、来る平成十年になりますが、全国の真宗門徒が集結し、『蓮如上人五百回御遠忌法要』が執り行なわれます。当、順正寺も、近隣の十四ヶ寺と協力し、団体参拝を行います。

記

※期　間・二泊三日
　平成十年四月二十二日～二十四日
※参加費・『八万円』ぐらいの予定

現在、旅行会社と交渉中！

初日に『御遠忌法要』に出座し、二日目、三日目は、蓮如上人に縁の加賀を中心に観光する予定でいます。

けっして安い金額ではありませんが、五十年に一度の大法要です。皆様の御参加をお待ちしております。

尚、本山より私達、十四ヶ寺に割り振られた人数枠は二百名までなので、一ヶ寺あたりの募集人員は十四～六名という事になります。定員になり次第、締め切らさせて頂きます。

二、「蓮如上人五百回御遠忌」演劇公演！

『蓮如』といって誰もがすぐに解るのは、今はもう昔の事。五百年前に、人間が本当に生きる事を目的として、現在の大教団（東・西本願寺）を形造った『蓮如上人』の一端でも知って頂ければ幸い。そんな、御縁として御覧ください。

記

前進座　公演

『蓮如―われ深き淵より―』

原作・脚本…五木寛之

期　間…平成8年11月22日～12月24日まで
場　所…銀座『セゾン劇場』
料　金…九千円（☆12月5日5時30分☆12月8日1時☆12月21日5時☆12月24日1時の4公演にかぎり、当寺の買取りの席が有りますので、寺の予算から補助を出します。四千円で御覧頂けます。）

団体参拝、観劇、共に、詳細はお寺にお問い合わせ下さい。

詳細はお寺にお問い合わ

入口　学

〒177東京都練馬区石神井町3－17－4
電話03（3996）2064
FAX03（3997）8117
順正寺